

## がん薬物療法看護援助論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次後期

- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授  
宮下美香 広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・  
がん看護開発学 教授  
坂井淳恵 岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師  
札埜和美 広島赤十字原爆病院 がん看護専門看護師

### 1. 科目の教育方針

がん薬物療法看護論で学んだ知識を基盤として、代表的疾患（腫瘍）の標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を探求する。がん患者が抱える薬物療法過程で生じた身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。そして、患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。

### 2. 教育目標

- 1) がん患者が抱えるがん薬物療法過程で生じやすい身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。
- 2) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法を確定するプロセスや科学的根拠に基づく治療のプロセスについて理解し、標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンを理解する。
- 3) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象を理解し、有害事象の予防・早期発見・早期対処を行なうための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を習得する。
- 4) がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響やガイドラインに基づく支持療法を理解し、患者・家族のセルフマネジメントを促進する援助方法を習得する。
- 5) 患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。
- 6) がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援について全人的にアセスメントし、治療中の生活の質を維持し高めるために、治療過程にあっても患者が自分らしく日常生活を過ごせるためのエビデンスに基づく看護援助の方法を探求する。

### 3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行なう。
- 2) 授業への臨み方
  - ・がん薬物療法過程にある患者・家族の生活の質やセルフケア能力を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
  - ・がん薬物療法に関する最新情報を文献等から主体的に収集し、学習すること。

### 3) 評価

[レポート]

50% (課題レポートの内容：課題に対する論理的思考及び問題解決思考過程を重視する。)  
[プレゼンテーション]

20%

[受講態度]

30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

#### 4. 使用テキスト、参考文献等

##### 1) テキスト

授業中、適宜紹介する。

##### 2) 参考図書

小島操子、佐藤禮子監訳 がん看護コアカリキュラム(医学書院)(最新版)

科学的根拠に基づく診療ガイドライン(各学会編)(最新版)：肺がん、大腸がん、乳がん、胃がん、肝臓がん等

その他、適宜紹介する。

#### 5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	がん薬物療法過程にあるがん患者と家族が抱える身体的・心理社会的問題の特徴	宮下美香
2	がん薬物療法を受ける患者の心理社会的側面のアセスメント	札埜和美
3	薬物療法主要レジメンと看護(1)肺がん	若崎淳子
4	薬物療法主要レジメンと看護(2)大腸がん	坂井淳恵
5	薬物療法主要レジメンと看護(3)乳がん	若崎淳子
6	薬物療法主要レジメンと看護(4)胃がん	坂井淳恵
7	薬物療法主要レジメンと看護(5)肝臓がん	札埜和美
8	がん薬物療法における治療選択と意思決定支援：事例検討 ①初期治療の場合 ②再発・転移に伴う治療の場合	若崎淳子
9	がん薬物療法を継続する患者とその家族の理解：事例検討 患者と家族に対する情報提供と心理的支援	若崎淳子
10	治療継続と治療中の生活の質を高める看護援助	坂井淳恵
11	がん薬物療法を継続する患者の就労支援	坂井淳恵
12	対応困難な事例の検討(1) 現象の理解と記述、看護介入案の作成(フィールドワーク)	若崎淳子
13	対応困難な事例の検討(2) 事例に基づくセルフケア能力向上にむけた看護介入案の検討 (含：プレゼンテーション)	若崎淳子
14	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(1)事例のアセスメントと看護介入案の作成	若崎淳子
15	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(2)事例に基づく看護介入案の検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子

嘱託講師は集中講義とする。